

# 市長室：対話の記録

## 要旨

## 開催内容の公開

### 対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第 36 回目となる今回は、市内の神居雨紛地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

34 人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成 20 年 12 月 2 日(火) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
場所	旭川市農業センター ホール(旭川市神居町雨紛)
出席者	・西川市長 ・市民(34 人)

## 対話の内容

※参加者はアルファベット(A~K)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

### 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介もらいました西川でございます。

今日は平日の日中ではありますが、大勢の皆さま方に農業センターにお集まりいただき、ありがとうございます。今日は神居雨紛地区にお住まいの皆さんを中心に、お声を掛けさせていただきました。農作業の季節と重ならないようにということで、地域の皆さんからお話をいただいたものですから、この冬に入った時期に開催をさせていただいたわけですが、地域としてはだいぶ後の方の開催となってしまいました。本来ならばもう少し早く皆さんとこういう場をもたせていただければと思っていたんですが、そういった事情がありましたということで、どうぞご理解をいただきたいと思います。

今、司会からも話がありましたが、1時間 30 分、3時半頃まで皆さんとこの後いろいろと意見交換、お話を聞かせていただきたいと思いますと考えておりますが、前段に私の方から若干この会の趣旨、現在の市政の取組等について、この機会にご紹介をさせていただきたいと考えております。

雨紛地区は、開拓の時代から本当に古くからこの地域で農業を中心にまちづくり、地域づくりが行われてきたという土地でございます。何と言っても、お米が中心でありますけれども、お米のほかにもいろいろ酪農ですとか、また、畑作、果樹園ですとか、いろいろな作物もやっておられる地域ではないかなと思っております。また、この施設ですけれども、花菜里ランドという愛称で、地域の皆さんに愛していただいておりますが、この農業センターの役割について、これからもっともって機能等も含めて充実していき、正に地域の農業を基幹産業とする旭川の農業者の皆さんをもっともって元気にするバックアップ、支援ができるようにということで、これからも知恵を絞っていきたくと考えております。また、いろいろところで私もお聴きする機会がありますが、雨紛囃子の保存についても、地域の皆さんに大変お世話になっております。そういった文化のみならず地域づくりにおいても、皆さんにご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げたいと思っております。



市内においても、少子高齢化という社会の波が到来してきておまして、その中で市街地もそうなんです、特にこちらの神居雨紛地区ですとか、江丹別地域、東旭川、東鷹栖などといった農業・農村地域ではその流れが非常に顕著に現れてきておまして、そのことが地域の活力の低下を招いているということについて、この神居雨紛地域においても、一つの大きな課題になっているのではないかと考えております。先日の新聞に出ておりましたが、雨紛中学校が年明けの3月で閉校をしなければならないという非常にさびしい話ではございますが、そういったことについて、明日から始まる議会に条例を提案をさせていただくということで、これまで地域の皆さんと学校、教育委員会とでいろいろと協議をさせていただいてきたのではないかなと思っております。学校という部分については、いろいろな地域で同じお話しが出てまいりますが、地域の核として本当に愛されてきた施設でありますので、出来れば学校を閉校してほしくないという声がいちいちいろいろとございます。ただ、一方においては児童数が非常に少なくなってきた、中では一桁というような学校もすでにありますが、一方ではもう少し大きな学校で、たくさんの友達をつくって、勉強して、遊んでもらった方がいいのではないかなという意見もあるのかなと思います。しかしながら、雨紛の中学校については閉校ということにはなるのですが、この中学校の校舎を今後どういう形で活用していくか、まずは地域の皆さんに利活用してもらうような考え方をこれからまとめていかなければいけないと考えております。これにつきましては、様々な機会でご相談をさせていただいて進めて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

対話集会ですが、私が市長に就任して2年になりますが、これまで36回開催させていただいております。地域の皆さんとの開催と、様々な団体の皆さんとの対話集会という二つの形で進めてきておりますが、地域においては、それぞれの地域の課題等について話を聞かせていただいております。また、一方で様々な団体の皆さんとは、保育所関係の人ですとか、福祉関係の人とか、ボランティア、NPOの関係の方々と専門的な意見交換もさせていただいております。対話から市政、まちづくりをしていきたいという私自身の思いでこれまで続けさせてもらっていますが、こういった対話をこれからも対話集会だけでなくいろいろな機会を設けて続けていきたいと思っております。

今日は皆さんが普段思っていらっしゃる、いろいろな思いがあるかと思いますが、是非気軽にお話ししていただければと思っております。これまで、対話集会でいろいろなお意見をいただいた中で、すぐに実現のできるものと、市役所内で検討を重ねていかなければならないものすとか、将来的に渡っての計画に入れていくべきというもの、また行政としては財政的事情などもあったりとかで、現時点では難しいものなど、様々な角度で検討

させていただいておりますが、例えば市営住宅について、障害者団体の皆さんとの話し合いの中で、高齢者、障害者の方が優先的に入れる市営住宅の枠を増やしてもらえないだろうかというようなご提案があり、この枠を125戸増やさせていただいたりですとか、また、子育て支援ということで「こども広場」をエスタの4階に託児施設として開設をさせていただいたりしております。また、こちらの雨紛地域においても、グリーンツーリズムということで、いろいろ取組をさせていただいている方も多いと思いますが、東旭川の方に昨年閉校になりました第一中学校がありますが、ここを一つのグリーンツーリズムの核として、今実験的にいろいろと取り組んでいるところでございます。地域の皆さんと学校廃校跡地利用の一つの形として何とか軌道に乗せていければなと思っておりますが、総合政策部が窓口になって、今そういった廃校ですとか、グリーンツーリズムについての取組を進めているところでもございます。また、市内にたくさんパークゴルフ場がありますが、芝の管理等についていろいろと課題をいただいておりますが、今まで公園緑地協会で一元的に管理していた施設について、やはり実際に使う人が管理すると、それなりにいい整備ができるのではないかとということで、末広地域の河川敷のパークゴルフ場について、利用団体の皆さんに管理整備の一部をお願いするということをスタートさせていただきました。このパークゴルフ場や公園の管理については、今後順次いろいろな団体の皆さんに委託して管理をしてもらうという方向に進めていきたいと思っております。また、こちらにおいては、そのようなことはないかもしれませんが、アパート・マンション、一人暮らし、学生さんという人たちが多い地域において、ごみ出しのマナーが悪いと町内からいろいろな苦情等を受けておりましたが、先日新聞にも出ていましたが、今後市内で新築されるアパート・マンションは、専用のごみステーションを設置しなければだめですよ義務付けるということになりました。罰則等がないので、あくまで皆さんにご理解、協力をいただくというレベルではありますけれども、ごみ排出マナーの向上ということにつながっていく一助、きっかけになればいいのかなという思いで、これについてもこれから本格的に進めていきたいと考えております。

市民文化会館の件に関してですが、今日、会場にお越しの皆さんの中にも、もしかしたら利用予定の方がいらっちゃって、来年の春まで閉館せざるを得ないということで、ご迷惑をお掛けした方もいるかもしれませんが、これについては、本当にお詫びをしなければいけないと思っております。一日も早く改修工事を終えて、来年3月の下旬から4月の中旬ぐらいまでを目途に、一日も早く文化会館が開館できるようにということで、今工事を進めているところでございます。また、補償の件ですとか、健康相談等についても対策チームをつくり対応しておりますので、どうか皆さま方のご理解をいただければと思っております。

昨年から実施させていただいた福祉灯油ですが、今年も1世帯5千円という補助をさせていただくということになりました。昨年よりも助成対象を拡大いたしまして、非課税の市民の方が対象ですが、低所得者の世帯で、満70歳以上の高齢者がいる世帯ですとか、また、障害、ひとり親家庭などの医療費助成の対象となっている世帯などに対して支給を予定しております。昨年は周知期間等が短く、申請件数も少なかったのですが、今年は少し早めにPRさせていただいて、また地域の民生委員さん、児童委員さんの協力も得ながら、高齢者が窓口に出向かないで、郵送での申請も可能にするなど、手続きの簡略化ということをさせていただきたいと考えております。灯油の値段の方も大分落ち着いてきて、一時期2、3か月前はどんなことになるんだろうと思っておりましたが、最近ガソリンも灯油の値段も大分落ち着いてきましたので、ほっとしております。いずれにいたしましても、これからまた厳しい冬を迎えますので、少しでも困っている方のお役に立てればという思いで福祉灯油について今年も実施しようと考えております。

それともう一つ、ちょっとPRさせていただきたいのですが、今、旭山動物園が非常に人気がありますが、この映画化が決定しまして、来年の2月から全国ロードショーで「旭山動物園物語」という映画が上映されます。旭川市内においては、全国に先駆けて若干早い時期の1月下旬から上映する予定です。この動物園の映画は国内だけではなく、台湾ですとか香港、シンガポールなどでも上映等についてお願いをしているところであり、台湾と

もう1か国、香港だったと思いますが、ほぼ上映していただけるというようなお話しをいただいております、今アジアからも多くの観光客が来ていますが、この映画が観光の起爆剤の一つになれば、またいろいろな部分で地域の活性化にもつながっていくのではないかなと考えております。

こちらの地域については、農業が基幹産業でございます。ご存じのように、日本を取り巻く農業状況が厳しい時代が長く続いてきております。そのような中で、去年は中国産の加工食品の偽装ですとか、ウナギの産地偽装など、いろいろな事件が起きた年でもございました。国民の皆さんの食の安心・安全に対する意識というのが非常に高まってきている中、国内産の食べ物ですとか、農産物に対しての皆さんの思いというのが、私は良い方向に向かってきているのではないかなと感じております。旭川においては、道の認証制度であります、「YES!clean」という低農薬野菜の認証率が北海道で一番高いという地域でありまして、旭川ブランドをこれからPRしていくうえで安心・安全・低農薬という美味しい野菜ですとか、これから「ゆめぴりか」という上川農業試験場で開発されたお米が、来年度以降、順次作付けされていくということでもあります。明後日、試食会がありますので、そこで初めてこの「ゆめぴりか」を食べさせていただくのですが、食べた方のお話しでは「コシヒカリ」以上の味だということです。私もこの「ゆめぴりか」がこれから旭川のブランド米として大きく育ってってもらいたいという思いで、農協の方ですとか、いろいろな農業者団体の皆さんとしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

また、こちらの農業センターでも土壌分析などさせていただいておりますが、先日、農業者の方、食品関係の業者の皆さんに対していろいろなお手伝いをさせていただこうということで「旭川食品産業支援センター」をスタートさせていただきました。これについては、順次これから関係者の皆さんのニーズに応じて機能を充実・拡充していきたいと考えておりますので、いろいろご利用いただける皆さま方からもこのセンターに対して様々なお話しやご要望をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。数日前に新聞に出ておりましたが、12月1日から、管理職の皆さんを対象にして、実績に応じて給料に反映させていくという成果主義を旭川市でも始めさせていただいたりですとか、また市の職員の中でもいろいろな方がいますが、適格性を欠くという思われる職員に対して、再教育をしていく制度を設けさせていただき、場合によっては辞めていただくということも起こりうる制度を今回始めさせていただきました。これについては、賛否両論あると思いますが、決して市の職員の皆さんを萎縮させるという意図では全くありません。頑張った職員がそれなりに評価されるような公正・公平な制度をつかっていきたいということと、それが組織の活性化、職員のやる気につながっていけばいいというような思いで始めさせていただいたものでございます。

また、今年の春に新しく市の組織改革を行いまして、新しく子育て支援部ですとか、税の徴収等について一元化した税務部などといった、新しい部も立ち上げさせていただきました。また、市民の皆さんのサービスの向上のために、引き続き私も一生懸命頑張っていきたいと思っております。

最近の話題について、一部でございましたけれども、せっかくの機会ですので皆さんにご紹介させていただきましたが、皆さんのご参考にしていただければと思います。

これから、約1時間ちょっと時間がありますけれども、皆さんからいろいろと意見等をいただき、有意義な時間にさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。冒頭のごあいさつに替えさせていただきたいと思っております。どうぞ皆さん、今日はよろしく願いいたします。

#### 参加者A

新聞報道等で100年に1度の世界的な大不況だと言われていますが、年金が少ないので、税金も払えない高齢者が多い状況です。市の財政状況も厳しい中、大変申し訳ないのですが、何とか9割ぐらい税金を安くしてほしいと思っています。

農業についてですが、耕地面積を増やしても、やればやるほど借金の金利が増えて大赤字です。年齢が60、70歳となり、収入が少なくなると、また借金で生活費がないという

状況です。銀行に行っても、農協に行ってもお金が貸りられず、先行きが不安です。灯油などの燃料代も高いので、暖房をつけることができない人もいます。

そこで、その今現在の雨紛の二号川から雨紛小中学校までの周辺の土地が宅地として売ることができないかなと思っています。なかなか人口も増えないので、売れることは難しいかもしれません。

また、子どもが少ないので、雨紛中学校が閉校になる予定ですが、ここを老人ホームや高齢者のための介護施設などにできないものかと考えています。

競馬場について、今残っているコンクリート建ての建物を来年壊すそうですが、日本全国の刑務所が満員になっているそうですので、その競馬場の建物を改修して、刑務所として利用してはどうでしょうか。

このように、この雨紛地区の発展のために、いろいろと考え努力してほしいと思います。

### 市長

確かに皆さんのような農業に携わっている方々が大変厳しい生活状況にあるということは私どもも認識をしております、大変な課題だと思っております。旭川だけでなく全国的な課題なのですが、農家の皆さんの所得が上がらなければ、後継者も出てこないですね。先日聞いたお話しだと、今、旭川で、49歳以下で農家をしている人が、農家全体で10%しかいないということらしいです。あとは皆50代、60代、70代の方だということです。49歳以下の方が10%しかいないということは、単純に考えると、あと20年ぐらいすると、農家人口が今の10分の1に減ってしまうようになっていくのかなと思います。

今、中には100町以上やっている人は何人かいますが、5町歩、6町歩ぐらいの方が、一人で50町、60町もできるわけもないので、農業が荒廃していくということに対して、市だけでは限界があるので、国で何とかこの農業政策に対して予算をつけてもらいたいなという思いでいっぱいであります。何とか地域の基幹産業である農業なので、これを次の世代につなげていけるようにということで、市で出来ることにも限界はありますけれども、頑張っていきたいと思っています。

中学校の跡利用についてはいろいろあると思います。まず地域の方がどういう方向がいいだろうかということで、いろいろとお話し合いをさせていただいて、そこで私ども話し合いをさせていただきたいと考えています。

土地の宅地化については、市だけではなかなか難しいことと、宅地造成、種目変更等の作業について、道が認可を出すという部分もあるものですから、今なかなか農地を宅地化するという点についてはできないという状況になっているというのが現状です。

競馬場についても、いろいろと話があるのですが、上川生産連さんの土地、建物で、そこに賃貸料を払って借りていたというものですから、上川生産連さんでどういう土地の利用方法があるかということも含めて、いろいろ今後いい話があれば何か考えていかなければなと思っています。

### 参加者B

この農業センターは、以前は園芸センターと言いましたが、ここで寝泊まりして勉強させていただいたことがあります。

今、この農業センターは地域というより市民の憩いの場という形で進んでいるのかなと思っています。農業をしている私たちにとっては、せっかくこういう施設があるのですから、農家のための施設ということで、職員もたくさんいるのですから、農家に対する技術指導ができる専門的な職員を配置していただければ、農家の人とのコミュニケーションが取れたり、農家の人がここに来やすくなるのではないかなと思います。

### 市長

農業センターの話については、いろいろな方から話を聞いております。今、農業センターのあり方について、職員の件も含めて、より専門的な部分で農家の皆さんと一緒にやっていけるようにということで、今、いろいろと農政部と話をしているところです。今後いろいろ

な部分でご相談させていただくこともあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 参加者C

いつも3月の春分の日頃にバーサー大会を行います。元々バーサー大会は地域の人の参加もあって、地域として大変盛り上がっていました。しかし、ここ数年は以前に比べて大分活気がなくなってしまったように感じています。市としては今後のバーサー大会についてどのように考えているのでしょうか。

### 市長

バーサー大会がまもなく30回を迎えますが、参加者が一番多いときで1万人突破という時がありましたが、昨年は3千人ということですから、最盛期の3分の1ぐらいになっています。これについては、毎年毎年、何とか参加人数を増やしていこうと取り組んできているのですが、なかなか抜本的な解決ができず、悩んでいるところです。しかしながら少なくとも約3千人の参加者がいますので、この大会自体は何とかこれからも存続していきたいという思いでいます。

ご存じのように、会場である競馬場が来年の3月までは使えるのですが、その後のバーサー大会の会場をどこにしようかということで、今いろいろと話をしていますが、まだ結論が出ていないところであります。富沢のクロスカントリーのコースですとか、花咲の陸上競技場あたりをベースキャンプにして、河川敷に抜けて行くようなコースができないだろうかとか今検討しているところです。何とか多くの方に参加してもらえるように工夫していかなければいけないと思っています。

参加者数の減少にはいろいろな原因があるのですが、一つは長く続いてきたということのマンネリ化、市民の皆さんにも少しずつ飽きられてきたというのかもしれないですし、それと特に子どもたちが最近スキーに乗らなくなってきて、アルペンスキーも山スキーもスキー人口はすごく減ってきて、また子どもが外で遊ばず、家の中でゲームばかりしているんですね。そういう時代になってきて、どうやって子どもたちを外に出してスキーに乗ってもらうかということが一つ課題としてあるのかなと思っています。学校の協力もいただきながら、何か考えて行きたいと思います。もし何かいいご提案があれば参考にさせていただきたいと思います。

### 参加者D

今、田舎の小中学校の小規模校がどんどん統廃合されていって、旭川市内も4校から5校、周辺の小中学校が統廃合されたと思いますが、来年の春には雨粉中学校も閉校となります。学校の入り口には避難所という看板があります。だいたい災害時には学校の体育館に避難することになっており、避難所として指定されていると思いますが、学校がなくなって、民間に貸し出したりされると、この避難所はどうなるのでしょうか。地域の住民には避難所がどこになるかということには知らされていません。

私は隣にある季節保育所の所長をしています。保育料が昨年から今年に掛けて一度値上がりしました。2年前から比べると2倍になります。地元農村地区は過疎で、わずかなお子さんしかいないのですが、橋や道路などの利便が良くなったことで、住宅街から通ってくれる方で持っていた部分があります。果たして車のガソリン代を掛けて、保育料が高くなったところに来てくれるだろうかという不安を抱えながら運営しています。

それと関連して、旭川市の国民健康保険の掛け金が妥当なのかということです。保育園に通ってくる子どもの中に国民健康保険に加入していない家庭があるようです。親が子どもを病院に連れて行きたがらないのです。買った薬を飲ませるからいいんだよと言います。札幌市では、18歳未満のすべての子どもたちに保険証を交付することとしたようです。他の自治体でもそのような取組をしているところがありますが、それについて市長のお考えをお聞かせいただければ幸いです。



## 市長

今後の課題として、私どももとらえていかなければいけない部分の話もありますが、少し現状についてのお話しをさせていただこうと思います。

避難所として扱われていた学校がなくなるということになれば、代替の施設を地域の方にお知らせすることが必要だと思っています。各地域において、そういったことは順次やってきていると思いますが、こちらの地域については、小学校は残るということと、この農業センターもありますので、避難場所としては小学校等を確保できるのかなと思っていますが、そういったことについては、地域、地域においてしっかりと対応していくべきだと考えております。

また、季節保育所の件についても、市役所の内部でいろいろな議論がありました。この保育料を上げるということについても、地域の方々からいろいろなご意見があったと聞いています。ただ、そのような中で、値上げということを決断させていただいたということは、利用されるの方々にとっては大変申し訳ないという思いでおりますが、例えば市内中心部の保育所に比べて、今まで季節保育所の保育料が非常に安いということについて、公平性という観点から値上げをさせていただいたという経緯がありました。永山地区に結構大きな何十人と通っている季節保育所があったのですが、保育料がほかの保育所よりも安いということで、市内各地から預けに来ていたという状況でありまして、こちらもやはり利用が減るのではないだろうかと議論がありました。これについても、私どもも重々受け止めなければいけないと思っており、引き続き動向等について見させていただきたいと思っています。値上げをしたことについては、利用者の方をはじめ関係者の方には、大変申し訳ないという思いでもございます。

健康保険の話ですが、自治体によって乳幼児や子どもの医療費等についていろいろな助成を行ったりしています。旭川も平均的な程度の助成以上はしているのかなと思いますが、それ以上の自治体も実際にあるわけです。この国民健康保険についてですが、大変な赤字になっております。この赤字の一番の原因というのが、料金を払わない方がたくさんいるということですね、収納率 80%台で、1割強の方が料金を支払っていない状況です。そういう方に対しては、一時的に資格証明書を発行させていただき、病院に通えないという状況をつくらないようにしているのですが、そういう一時的な保険証を持っている方は、病気になっても子どもを病院に連れて行きたがらないという傾向はあります。保険証は使えるんですよ。経済的理由等があるのかもしれませんが、そういった傾向が旭川のみならず全国的に高いというお話しは聞いています。ただ、子どもが重病になるまで連れて行かないですとか、子どもの歯が全部虫歯になって、歯が腐ってなくなっても歯医者に連れて行かないという親もいるそうです。本当にそういうことが起きないように、私どもも保育所や幼稚園などと連携していきたいと思いますが、これについても市の財政との兼ね合いもありますけれども、引き続きそういった子どもに対しての医療援助ということは課題として今後とも頑張っていきたいという思いではおります。

## 参加者E

雨紛小・中学校のPTA会長をさせていただいております。

先月の 27 日に、雨紛中学校の跡利用を考える「雨紛の今後を考える会」という会を設立させていただき、第 1 回目の会議を行っております。その席に、学校教育部からと総合政策部のまちづくり推進課から職員の方に来ていただきました。会議の中では、この農業センターと隣接している関係から、どうしても農政部に来ていただくのが最適ではないかという意見が多かったわけです。今、農政部は朝日生命ビルに入っていますよね。その賃貸料などいろいろ考えると、ここに来てもらうことが一番いいのではないかと考えています。雨紛小学校は残りますから、その隣に何でもかんでも来てもらうということは、小学校に害があってもいけないのです。市の農政部に来ていただくのが一番いいと思います。強く要望いたしますので、よろしくお願いいたします。

## 市長

過去にそういう検討をさせていただいた経緯もあるのですが、地域の皆さんのご要望でございますので、今後の跡利用という中で選択肢の一つとして検討させていただきたいと思っております。またどういう形になるか、もう少しいろいろお話しをさせていただかなければいけないかなと思っております。

#### 参加者F

旭川市で、大きな企業を誘致しているとか、そういうことがありますか。若者のいないところは廃れていきます。雨紛地域がいい例です。跡継ぎがない、若者がいないために人口が増えないんですね。とうとう雨紛中学校廃校というような形になってしまいました。この地域を発展させるためには、旭川市に人口が増えて、そして宅地になっていけば、廃校というようなこともなかったのではないかなと思っております。

旭川市も若者の働くところがないと人口が増えることは考えられません。そこで若者が働けるような企業を誘致して、旭川市に住んでいただくという方法を考えていただきたいと思います。

ほとんどの学生は就職先として札幌の方へ行ってしまう。札幌へ行くといろいろな面で高いです。宿泊にしても何にしても。なぜ旭川を希望しないかという、旭川は働くところがない。札幌に行けば就職がいいということです。旭川市も若者が働けるような状態にもっていかないと、人口はますます減っていくのではないかなと思っております。

なるべく若者が働ける大企業を旭川に誘致をしていただきたいと思います。

#### 市長

企業の大小にかかわらず、是非私どもも企業誘致をしていきたいということで、市長になってから取り組んできているのですが、なかなかすぐに結果が出るという段階にはきていません。先日も東京に行きまして、向こうの企業の関係の方、数十人に声を掛けさせていただき、旭川ではこういう工業団地があります、医大の横にはリサーチパークという工業用地がありますということですか、すばらしい環境、農業が基幹産業ですとか、医科大学があって、医療も充実したまちですなどいろいろとPRさせていただいております。引き続き、私だけではなく、市の経済観光部も一生懸命頑張っておりますので、これからも何とか少しずつでもやっていきたいかなと思っております。

#### 参加者G

競馬が旭川での開催はなくなりました。私は、農家で野菜と米を作っているのですが、競馬場とは今までずっと堆肥の引き取りをさせていただいていました。昔、花咲町の競馬場がある頃から、堆肥を引き取っていました。競馬がなくなることで、堆肥もなくなってしまう。

そこで、今、市で生ごみ処理を行っていると思いますが、その処理したものはどういう形になっているのでしょうか。落ち葉の処理なども行っているようですが、そういうものを堆肥化して、何とか地域にリサイクルというか、そういう形で還元していただければと思います。

#### 市長

市が燃やせるごみの日に回収した生ごみについては、焼却して灰にして埋め立てています。そのほか個々の家庭に対して、電動生ごみ処理機ですとか堆肥化容器の購入に対する助成などを行っており、今年もその数を増やさせてもらっております。また落ち葉については昨年の有料化に伴い、落ち葉を回収してそれを堆肥化するという取組を始めましたが、当初はプラタナス、イチヨウの葉は回収できなかったのですが、今年からはイチヨウもプラタナスも全部回収できるようになりました。これについては、堆肥になるのに3年程度かかりますので、来年か再来年ぐらいになります。これについては何とか市民の皆さんに還元していこうと思っております。ただ、農家の皆さんが使うほどの堆肥の量には及ばないかもしれませんが、今後、生ごみも堆肥にするのに、どういう規模でということも



含めて課題としてとらえていかなければいけないかなと思います。

#### 参加者H

この農業センターについて、私の考えを申し上げさせていただきたいと思います。先ほど農業センターについてのお話がありましたが、私はまったく正反対のことを申し上げたいと思います。

実は私は、昭和43年から61年まで当時園芸センターと言いましたが、職員として勤務していました。その当時、私は業務吏員として採用になりました。その後に技術吏員の人が来ましたら、私も業務吏員がその下で働くものだと考えていました。ところがなかなか技術吏員の人が入ってきません。変だなと思いながら、2、3年後にその当時の所長に、技術吏員の人はいつ頃入るのですかと聞きました。その所長は「いや、なかなか適当な人がいなくてね」という返事でした。なかなかそうは簡単にはいかないんだなということが分かりました。約18年勤務しましたが、やはり非常に困りました。この園芸センターの仕事というのは、非常に簡単に言えば、あってもなくてもいい、やればやれる、やらないならやなくても済むというようなことで、勤務している者としてはそれが一番難しいです。このパンフレットに主な業務内容として、昔からこのように載っていたのですが、野菜・花きなどの生産技術の試験研究及び展示、効果的な土づくりを行うための土壌分析及び診断、成型育苗の実用化試験、各種研修会・講習会の開催、農業に親しむ場の提供などとなっていますが、野菜・花きなどの生産技術の試験研究などは、市の施設では無理な話だと思います。私が勤めた18年の間に正式な技術吏員の人はいませんでした。この生産技術の試験・研究は市では無理だと思います。ですから、この農業センターは本当に市民向けの、分かりやすく言えば、旭山動物園のような、ここは植物の市民向けの憩いの場とした方がいいのではないかと思います。

#### 市長

同じこのセンターに対しても、人によって、それぞれ考え方があるんだなとお聞きいたしておりました。私は、農家の皆さんにもっともっと信頼、利用していただけるようなセンターにならないだろうかという思いではおりますが、技術指導ができるような職員は、農家の人よりもさらに知識と経験がある人でなければできないということもあるのでしょうか、やはりその職員が定期的な人事異動で何度も替わってしまうというのであれば、その専門家になりきれず、また地域の皆さんとの信頼関係を築くことができないということもあるかもしれません。そういった人間的なことも必要なものでしょうし、また、一方で、横にあるハウスやこの建物の中に料理するところがありますが、ここも市民の方に利用してもらえよう施設としても意味合いがあると思います。これらどちらも重要だという思いではありますが、いろいろなご意見があるということで聞かせていただきました。いろいろ参考にさせていただきたいと思います。

#### 参加者I

まず、市民文化会館の使用について、それから70歳以上の灯油の件について、それから職員の天下りについて、それから地域活動について、この4点についてお伺いいたします。市民文化会館がアスベストの件で現在使われていませんが、建設当時にアスベストが出ないで、なぜ今頃出るのですか。

2つ目は、70歳以上の人に灯油代として5千円ということですが、これは1戸5千円なのでしょうか、一人5千円なのでしょうか。

3つ目は、天下りの職員を使わないでほしいということですが、どこの職場も同じだと思いますが、大変使いづらいからです。その人を雇うことによって、せっかくやる気のある人が、その人のためにやりづらくなっているというのが現状です。

それから、地域活動についてです。地域では様々な活動がありますが、そのような活動をしているのは高齢者が多く、数年後にはいなくなってしまうし、跡継ぎがない農家では、たとえ70を過ぎていても、先頭になって働かなければなりませんので、そういう

活動をしたくてもできないのが現状だということを皆さんに理解してもらいたいと思います。

### 市長

市民文化会館は昭和 50 年に開館ですので、約 30 年前ですね。実は当時、国からアスベストを使いなさいという指導があったのです。あらゆる建材にすべてアスベストを使いなさいと、それは防音性や断熱性に優れているということで国はそういうことを奨励していました。その後、アスベストが身体に悪いということが分かって、国が方向転換をしたのです。各自治体は国に言われたとおりにやっていたのですが、国の方向転換により、全部の施設を点検しました。平成 17 年に旭川市も市内の公有施設の全部を点検したのですが、その時に発見されたアスベストもありました。市民文化会館に関しては、3 年前の時には発見されませんでした。なぜ発見できなかったのかについては、幾つか原因があるのですが、当時、30 年前に文化会館を造ったときの設計図と、実際に付けられていた部材が違う物が使われておまして、職員は設計図を見た範囲では、そこにアスベストが使われているということは分からなかったのですが、今回、目視で確認をした時に、アスベストらしき物が吹き付けられているのではないかとということで、今回発見をして、こういう事態になったということです。民間施設でも、昭和 40 年代、50 年代に造られた建物については、アスベストがたくさん使われており、それについては市からもいろいろと話をしておりますので、民間で対応をしていると思います。その時代の建物については、場合によっては今後また出てくる可能性はあるということで、今もう一度、市有施設に関しては、数百の施設がありますが、全部再点検をしている最中です。

福祉灯油に関してですが、世帯の中に 70 歳以上の方が一人でもいれば支給対象となるということで、世帯毎の支給です。ですから、世帯に 2 人いても、3 人いても 5 千円です。建物の暖房費ということですので、世帯毎に支給しているという形になっています。

天下りの件については、いろいろテレビなどでも取り上げられておりますので、私どももそういった誤解を受けることがないように、なるべく減らしていかなければいけないと考えていますが、どうしても専門的な部分でそういった知識、経験が必要な場所もあるものですから、そういう場合にはきちんと市民の皆さんに説明のできる、誤解のないような形でやっていきたいと思っています。

地域活動について、非常に高齢化が進んでいるということです。老人クラブの皆さんもそうですが、町内会の役員の皆さんもそうだったりとすることで、ボランティア、また一緒にいろんな地域のお祭りをやっていこうだとか、行事をやっていこうという上で非常に厳しい時代だという認識をしています。私どもも地域を形成していく上で、皆さんの活動がやはり根幹だと思っておりますので、何とか若い人にも参加してもらいたいということで、いろいろと取り組んできていますが、どうしても若い人の少ない地域においては、今後にそういう課題が出てくるだろうと思います。何とか必要な手を打つことができるように、私どもも考えなければと思っております。

### 参加者I

老人クラブの運営に対して市から補助金を支給されています。この補助金での飲み食いはしてはいけないことになっていますが、はっきり言って、飲み食いがなければ行事に参加しません。そして、この決算書を書くのが大変です。例えば、雨紛では年間約 130 万円をかけて老人活動をしています。しかし、市からいただく補助金は 5 万円程度です。その明細をきちんと書けということです。老人クラブの活動は、忘年会もあれば総会もあればいろいろとあります。その時に使った金に、市の金をどれだけそこに使ったかという明細を書かなければいけないのです。市内の老人クラブは皆苦勞していると思います。5 万円程度の補助金であれば要りません、と市長に直接手紙を出したこともあります。たくさんならいいけど、少ない補助金で細かいことを言われるのであれば、もらわない方がいいです。その方が気楽に活動できます。

### 市長

老人クラブの皆さんや地区市民委員会の皆さんにも補助金を出させていただいておりますが、飲食には使わないでくださいということで、ほかのいろいろな団体も一律に何年か前にそうさせてもらったのかなと思います。市の財政が厳しいという当時の背景もあったでしょうし、市民の皆さんの税金ですので、なるべくそういった部分で誤解を受けないように使いましょうということで、当時そうなったのかと思います。

そこそこのお金でいろいろと書いて提出するのは大変というお話しは、市民委員会の方からも聞いた記憶があります。

### 市民生活部長

役所の書類というのは非常に面倒だということですが、金額にかかわらず、書式がだいたい決まっております、税金を使っているということで、監査が入ったりしますと、こういう使い方をしなさいという指導などあることが基本にあります。書き方が難しい、分かりにくいということについては、もっと分かりやすくしなければいけないと思っておりますし、それから、補助金と分ける部分について、補助金を支給する時に十分に説明することも必要だと思っております。私どももより使いやすい、分かりやすいような形で進めて行かなければならないと考えておりますが、基本的には税金ということがあり、面倒な部分もあるということもご理解いただければと思います。

### 参加者F

敬老会ですが、昨年まではタオルがほぼ全員の対象者に配られました。金額の面にしても今年は一人千円です。社会福祉協議会からいただくお金もだんだんと減ってきています。今年もタオルありません。地域でタオルを準備して渡しています。削られた分は地域の負担になってしまうので、予算を極端に減らすことは止めてほしいと思います。

### 市長

予算を削るというのは苦渋の決断だったのですが、本当に寂しい思いをされているということは十分に理解しています。お金のある時であればこのようなことをせずに済んだのだろうと思うこともありますが、ここ2、3年が厳しい時期で市の財政の一番の山場です。その後、少しずつ財政状況も好転してくるであろうと思っています。ご迷惑を掛け本当に申し訳ないと思っています。どうかご理解いただきたいと思っています。

### 参加者B

旭川市の人口が年々減っています。もちろん少子化の問題もありますが、他町村にかなりの人が行っているのではないのでしょうか。例えば、東神楽のひじり野や、当麻ではこちらの半値で買える土地がどんどん造成されて売買されています。旭川市に住んでいた人たちがそちらに行って家を建てている。当然市の人口は減ってしまいます。

この雨紛地区は駅を中心とした中で、一番近い空き地がある土地です。それを宅地にしにくいいるために、住民が他町村に行ってしまう。この辺の土地も安く宅地化できると思いますので、早く宅地にして、他市町村に人が行かないようにしてはどうでしょうか。この雨紛地区は、ある学校の先生たちが、優良農業用地ということで宅地にはしないという話も聞いています。優良農業用地であれば、なぜ休耕したり、転作したり、あるいは牧草を作ったり、そばを作ったり、このようなことをしなければならぬのでしょうか。言っていることとやっていることがバラバラになっている状況です。

市街に一番近い土地は雨紛しかないと思います。宅地化を検討していただきたいと思っています。

### 市長

実際、ひじり野ですとか、鷹栖町、当麻町では、坪単価が3万とか4万円で旭川の半分以上以下ですね。若い人や私の友達も何人も市外に出て家を建てているという実情はありま

す。旭川の人口は、一番多い時が36万5,6千人いたのですが、当時に比べて1万人くらい減っているのですが、周辺3町を合わせると1万人くらい増えているんですね。旭川と周辺3町を合わせた人口はあまり変わっていないのです。それは多分若い人が出て行ったということもあるでしょうが、団塊の世代の前後くらいの方々が亡くなっていくであろう10数年後、20年後くらいからは、旭川だけではなく日本全国で急激に人口が減っていくであろうと予想されています。それは自然減ですね。北海道は今560万人ですが、20年後くらいには480万人、日本の人口が今1億2千万ですが、2,30年後には1億を切れそうな感じで、このままいくと100年後には大体6千万人くらい、ちょうど日露戦争の時と同じ人口になると言われています。それは自然減ですから、社会減というのは町のいろんな仕事があるとか、仕事がないとかによって、その町、町の移動はあると思いますが、全体的な流れの中ではこうなっていくんだろうと思っています。

私どもも、将来のことを考えて、これからは宅地をなるべく郊外に造成していかない方が市全体にとっていいのではないかという思いもあり、また、道や国もそういう指導をしております。新規に農地を宅地化することについて、旭川市は都市計画をもっていますので、なかなかその許可が下りないという状況もあります。周辺の町の中には都市計画を持っていない町もあり、そういうところは宅地造成をしやすいんですね。土地用途が決まっていない土地がほとんどでありますので、簡単に造成できるということが、私どもの違いなんです。今思えば、そのような計画をつくらなければ良かったなという話もちらほら出ておりますけれども、これは市であれば絶対につくらなければいけない、町は作らなくてもいいという場合があるんですね。そういうような自治体の違いがあります。現状としてはそういうことであるということなので、頭の片隅にそっと置いていただければありがたいなと思います。

#### 参加者J

神居東の小学校、中学校がある地域は全然学校がなかったところですよ。現在は3階建ての学校が建って、多くの生徒がいます。どうしてそうなったかと言うと、宅地になって人が住みだしたからです。検討されればと思います。

#### 市長

分かりました。

#### 参加者K

私どもの地域に、産業廃棄物の会社が3社ほどあります。その1社と私どもの市民委員会とで10年前に約定書を取り交わし、来年の3月31日で使用期限が切れることになっており、ここ4年間ほど年に1回程度、市民委員会の役員、地域の町内会長と現地視察を行っています。

先日、その会社にお伺いしたのですが、もう1回約定書を作り直して今後5年ほど継続したいと言います。私どもとしては、当初の予定どおり3月31日でやめてもらわなければならないと思っていますし、また地域住民の説得も難しいところですので、その点について、市の環境部の方から助言などをいただけないかなと思っています。

#### 市長

その件については、私も環境部から聞いておりますが、しっかりと環境部が中心となってやっていくという思いで当然おります。また、私ども環境部に対しても、いろいろとご意見いただければと思っています。

#### 参加者A

農業についてですが、来年から肥料代が50から70%値上げになるといいます。農業政策に対して、国や市は本気で取り組もうとしている姿勢が見受けられません。一生懸命努力してほしいと思います。

## 市長

私ども皆さんの思いはよく理解しているつもりでありますので、これからも引き続き頑張っていきたいと思えます。

## 市長終わりのあいさつ

まだご発言したかった方もいらしたかもしれませんが、時間が限られているものですから、申し訳ございません。

今日はいろいろと地域の皆さんとこのように意見交換させていただいてどうもありがとうございました。皆さんのお話の中に、幾つか今後の検討材料としなければならないものもあったかと思えますので、引き続き頑張っていきたいと思えます。

12月に入りましたので、これからどんどん寒くなってまいりますし、大変忙しい年末を迎えられます。またインフルエンザが流行るのではないかという話も出てきています。どうか体調に気を付けられて良いお年をお迎えになっていただければと思えます。

また今後ともどうぞよろしくお願い致します。今日はどうもありがとうございました。